2015.07
vol.2

nastent™ classic

ナステント™ クラシック

睡眠時の気道を確保する、
もっとも意外で、簡単な方法。

ナステント™ クラシックは鼻から挿入し、
寝苦しさ、睡眠中の頻繁な覚醒、
いびきの原因となる気道の閉塞(へいそく)や狭窄(きょうさく)を防ぐ
使い捨て鼻腔挿入(びこうそうにゅう)デバイスです。

seven dreamers

seven dreamers laboratories 株式会社
〒108-0073 東京都港区三田 1-4-28
TEL：03-6453-7018　FAX：03-6453-7019　URL：www.sevendreamers.com

The suprising secret to restful night.

睡眠時の起動を確保する、もっとも意外で、簡単な方法。

新発売!!

いびきや無呼吸の発生を防ぐ、気道を確保する使い捨ての鼻腔挿入デバイス「ナステント™ クラシック」が発売されました。

いびきや睡眠中の無呼吸に、新たな治療法を提案します。

製造販売届出番号：13B2X10245000001

日本の企業が開発し、販売する世界初の製品です。

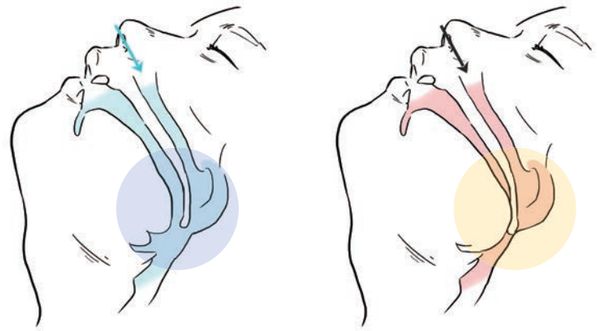
4,200 円（税別・7本入り / 箱）　ナステント™ クラシックは、一般医療機器です。

いびきや無呼吸は、健康維持の危険信号 !!
静かで穏やかな呼吸とともに眠ることが、本当の睡眠。
あなたはできていますか？ ベットパートナーはできていますか？

理想の肌に導き、体調の維持に不可欠な免疫力には、良質な睡眠がもっとも重要です。良質な睡眠とは、**穏やかな呼吸とともに深い睡眠を導くこと**です。この良質な睡眠を邪魔する最大の要因は、いびきや無呼吸です。いびきは、ベットパートナーへのいびき音による騒音の問題だけではなく、日中の眠気からの生活習慣の乱れに繋がります。

いびきをかく人の多くは、睡眠時無呼吸症候群を合併しており、免疫力の低下とともに健康に大きな悪影響を及ぼすことがわかっています。具体的には、将来の QOL（Quality of Life）に大きく影響する**糖尿病、高血圧、心不全、心筋梗塞等**を引き起こす可能性が高いことが多くの研究結果から明らかになっています。

睡眠時無呼吸症候群とは、睡眠中に、**「激しいいびきをかく」「呼吸が止まる」**などの症状があらわれ、十分な睡眠が取れないため、**日中の眠気や倦怠感、集中力の低下を引き起こす**病気です。睡眠中のいびきや呼吸が止まる発生原因は、**肥満や顔の骨格、加齢**などにより、**気道が狭いことや塞いでしまう**ことにより発生します。（右図を見てください）



通常の状態　　いびき・無呼吸発生の状態

いびきや睡眠時無呼吸症候群を放置することは、大変危険です。1 日の 3 分の 1 を占める睡眠を大切にしましょう。

いびき・睡眠時無呼吸症候群の検査をし、適切な治療をしましょう。治療法は、さまざまな方法があります。
その中の 1 つである、ナステント™クラシックをご紹介します。**もっとも新しく簡単な方法です。**

ナステント™ クラシックは、
患者さまご自身で装用してお使いいただく
使い捨て医療機器です

ナステント™クラシックは鼻から挿入するチューブ状の使い捨て医療機器です。チューブの先端は口蓋垂（のどちんこ）付近にまで到達します。挿入されたチューブが寝苦しさ、睡眠中の頻繁な覚醒、いびきの原因となる気道の閉塞を防ぎ、呼吸の確保を助けます。ナステント™クラシックは非常に柔らかい材料で作られており、多くの患者さんが小さな負担で使用できるように設計されています。

ナステント™ クラシックの特徴

人肌とほぼ同じ柔らかさ

人肌に近い硬度 5 ～ 20 のシリコーンゴムを主成分として使用しています。治療効果を保ちつつ、**挿入時の痛み、違和感にできる限り配慮しています。**

「かえし構造」ノーズクリッパー

ノーズクリッパーは鼻柱（左右の穴を隔てている部分）に引っ掛けて使用します。独自の「かえし構造」で**クリップしやすく、睡眠中にはしっかりと固定します。**

7 本入りでコンパクト

ナステント™クラシックは、**1 箱に 7 本（1 週間分）**入っています。**軽量かつ電源が不必要**のため、旅行や出張などに気軽に持って行くことができます。

カラダよりもみずみずしいジェル

ナステント™クラシックには、**潤滑剤としてハイドロジェルを塗布しています。**成分の 80% 以上が水でできており、すべての方にスムーズに挿入していただけるように、工夫しています。

いつも清潔に

鼻の中はやわらかく敏感な粘膜でできています。だから清潔であるべきです。ナステント™クラシックは**ひとつひとつ丁寧にパック・滅菌されています**ので、安心してご使用いただけます。

あなたに合わせたフィット感

さまざまな長さと硬さのモデルがあります。医師の指示に従って最適なナステント™クラシックをお選びいただけます。**外から見た目が、全く気になりません。**

使い方は簡単です

1 清潔にした手で本品を開封し取り出します。

2 チューブ本体を適切な鼻孔（右用は右、左用は左の鼻孔）にゆっくりと挿入します。

3 鼻腔を経て咽頭まで挿入したら、ノーズクリッパーを鼻柱に取り付けます。鏡などで本品の先端が軟口蓋から出ていることを確認します。（個人差により見えづらい場合があります。）

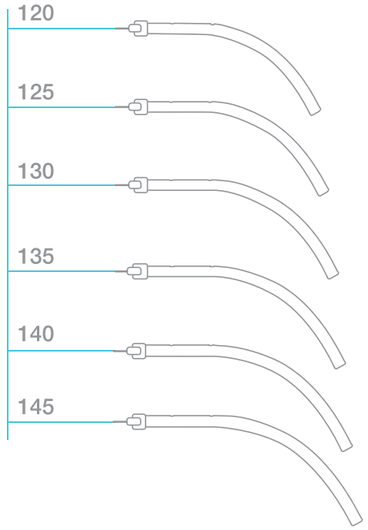
4 そのままお休みください。

5 起床後速やかに、本品を慎重に取り出して廃棄します。

家庭用ゴミとして処分できます。分別については各自治体に従ってください。

あなたにあったサイズを選択できます

（長さの種類）



（硬さの種類）

・ソフト

・ハード（ソフトの約４倍の硬度）

ナステント™クラシックは、複数のサイズと硬さがあります。有効にお使いいただくために、最適なサイズと硬さをお選びください。

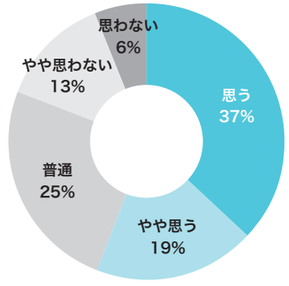
（右用、左用）

右用、左用が選択いただけます。

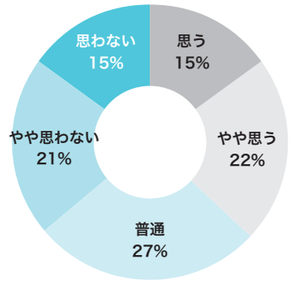
ナステント™ クラシック サンプリングデータ

20〜70 代男女 379 名に、ナステント™クラシックを使用していただき、下記の質問の結果をまとめました。

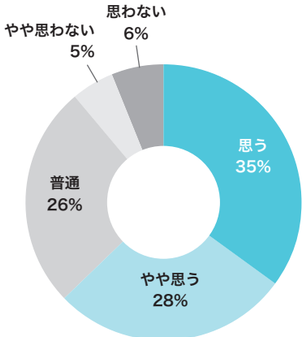
Q1：挿入はすぐできたか？



Q2：挿入時に、
不快感を感じましたか？

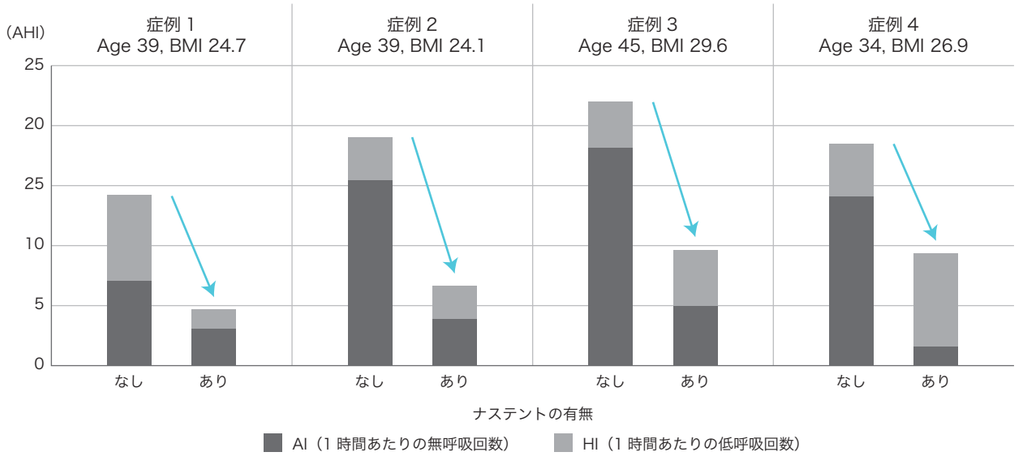


Q3：ナステントの使用は簡単だと
思いますか？



ナステント™ クラシックの無呼吸への効果

ナステント™クラシックの使用データ比較



2014 年 7 月 14 日のナステント™クラシックの発売開始しました。
それ以降、さまざまな業界誌や医療専門紙、WEB 媒体にナステント™クラシックを掲載していただきました。

雑　誌

2014年10月20日『月刊ナーシング』

発行部数：6万部
月刊誌（毎月20日発行）

Nursing ナーシングビュー View 看護に役立つトレンドを知る

ナースが知っておきたいSASの新デバイス

睡眠時の気道確保に「ナステント™ クラシック」

■月刊ナーシング編集部

今年(2014年)7月，セブン ドリーマーズ ラボラトリーズから睡眠時無呼吸症候群(SAS)や，いびきなどの主な原因となる睡眠時の気道閉塞を防ぐ，鼻腔挿入タイプの医療機器「ナステント™クラシック」が発売されました(図1)．ナステント™クラシックは，SASの一般的な治療機器である持続的気道陽圧法(CPAP)とは異なるアプローチにより気道を開存するもので，気道閉塞の改善はもちろんのこと，患者の機器装着による負担の軽減が重要なコンセプトとなっています．

開発が始まった2007年当時は，SASが社会的に認知されはじめ，注目を集めていた時期でした．しかしそのなかで，治療の多くに利用されるCPAPをいくつかの原因で使い続けることができない患者が，多少なりともいることが確認されました．

特徴と既存機器との違い

CPAPは，鼻にマスクを装着しコンプレッサーから送られる空気で気道を膨らませる装置ですが，睡眠中にマスクを装着するため使用感があり寝苦しい，持ち運びに不便で電源の確保や，清潔を保つためのメンテナンスが必要となります．

ナステント™クラシックはこのような点に注目した機器で，しくみは非常にシンプル．寝る前にシリコーン樹脂製の柔らかいチューブを鼻腔から軟口蓋まで入れることで，軟口蓋の落下をチューブが支え，気道を開存します．シリコーン樹脂製のチューブは，装着時の異物感を減らすために，人肌の感覚に近い硬度5～20を使用し，多くの患者は何日か使うと異物感が軽減されるそうです．

図1　ナステント™クラシック

さらにチューブのほとんどが鼻腔に入りこむため装着していることがわかりにくいのも特徴で，寝姿が気になりません．

また，1つひとつ滅菌しパックされたディスポーザブル機器なので，メンテナンスの必要がなく清潔を保てます．

このように，ナステント™クラシックは患者のユーザビリティを強く意識しています．CPAPが合わない患者にとっては新しい選択肢となり，たとえば自宅ではCPAPを使用し，旅行にはナステント™クラシックを携帯する，といったライフスタイルに合わせた利用もできます．

鼻腔挿入のポイント

ナステント™クラシックは，挿入する鼻腔によって左右のタイプがあります．どちらかの鼻腔に入れればよいので，広いほう(片方の鼻腔を塞いで呼吸し，より呼吸しやすいほう)を選びましょう．まず，チューブの穴を上向きに挿入します．コツは図2のように，顔に向かって水平方向にゆっくり入れることです．鼻腔の構造をイメージすると，スムーズに挿入できます．

また，患者本人に挿入してもらうことが勧められています．個人差はありますが，挿入時には異物感や恐怖感があるので，患者のペースで入れてもらいます．患者が耐えられない異物感や痛みを感じるようであれば，無理な挿入は控えることが重要です．

チューブの先端が軟口蓋まで達したら，口を開けてもらい目視で確認します．先端が3～5mm程度見えているのが適正な長さで，この状態で鼻腔から出ている余分を確認し，差し引いた長さが適正サイズとなります(図3)．サイズは120～145mm(5mm刻みの6サイズ)から選択できます．

最後に鼻柱をノーズクリッパーではさみ固定し，装着完了となります．挿入直後はとくに異物感がありますが，10～15分ほどで慣れてくる患者が多いそうです．

図2　挿入は水平を意識してゆっくりと

図3　適正サイズを確認

臨床研究データから見る効果

図4は，SAS患者にナステント™クラシックを使用した臨床研修データです．SAS患者は経皮的動脈血酸素飽和度(SpO_2)が90％を下回ることが頻回で安定していないのに対し，ナステント™クラシックを使用した場合，健常者に近いフラットなSpO_2の推移になっていることがわかります．

図5は，1年間ナステント™クラシックを使用し続けた患者の無呼吸低呼吸指数(AHI)を測定したグラフです．同一患者で5日間のAHIを3回測定したもので，いずれの結果もAHIの低下を確認しています．

＊

ナステント™クラシックは医療機器のため，事前に医師の処方が必要ですが，睡眠時の気道確保に悩む患者を抱える看護師にとって，新たな選択肢の1つになるといえるでしょう．

図4　SAS患者にナステント™クラシックを使用した例

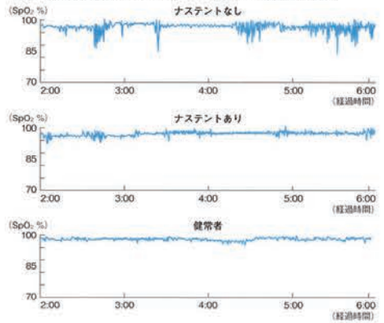
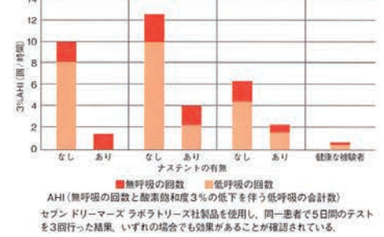


図5　ナステント™クラシックを1年間使用したAHI測定例



AHI（無呼吸の回数と酸素飽和度3％の低下を伴う低呼吸の合計数）
セブン ドリーマーズ ラボラトリーズ社製品を使用し，同一患者で5日間のテストを3回行った結果．いずれの場合でも効果があることが確認されている．

引用・参考文献
1）ナステント™クラシックのHP．
http://nastent.sevendreamers.com

SpO_2：percutaneous oxygen saturation，経皮的動脈血酸素飽和度
AHI：apnea hypopnea index，無呼吸低呼吸指数

SAS：sleep apnea syndrome，睡眠時無呼吸症候群
CPAP：continuous positive airway pressure，持続的気道陽圧法

雑　誌

2015年3月16日『からだにいいこと』

発行部数：11万部
月刊誌（毎月16日発行）

終夜睡眠ポリグラフ（PSG）検査

何も自覚症状がなくても、自分の睡眠の状態を検査してもらうことができます。「睡眠は、健康を維持するためにはとても大切なものです。健康診断をするように、年に1回は検査したいものです。人間ドックに取り入れている病院もあります」

検査項目

- 睡眠の状態（脳波、眼球運動、頤筋筋電図）
- いびき音（マイク）
- 血中酸素飽和度（パルスオキシメーター）
- 心臓の動き（心電図）
- 呼吸の状態（気流センサー、胸部バンド、腹部バンド）
- 体の動き（体位センサー）
- むずむず脚症候群（下肢センサー）

病室に付けたモニター画面をナースセンターなどで監視すると同時に、体につけた脳波や心電図計から送られるデータもモニタリングしていきます。
検査には保険が利くので、33,000円の3割負担か1割負担になります。ただし、寝ている間の状態を検査するためには、1泊入院する必要があり、個室料が2日分かかります。

なっても疲れが取れていないということが起こるわけです。

「ノンレム期の行動障害である「夢遊病」の方は、キッチンに行って何かを食べたり、部屋を走りまわったりすることもあります。寝言はレム期に起こりますが、同じくレム期の行動障害である「レム行動障害」の場合は、夢で見ているものをそのまま声に出して叫んでしまうこともあります。これでは翌朝、当然、疲れが残ってしまいます。レム行動障害などは、薬の副作用で起こることがあります。また、睡眠時無呼吸症候群の場合は、生活習慣病に繋がる可能性もありますので、医師に相談されることをおススメします」

良質な睡眠をとるためのおすすめグッズ

インターネットなどが発達し、24時間どこかで誰かが起きている現代は、深く眠ることが難しくなっています。自分でも「ちゃんと眠れているのかな？」といったこともわかりにくいもの。そこで、良質な睡眠をとるためのお助けグッズをご紹介しましょう。

眠る前にアロマの香りで脳をリラックス

サラヤのアロマライフシリーズ「Sleep」（25mL ¥1,296）は、合成香料を一切使わず、100%天然の素材だけなので、きちんとした効果が期待でき、体にも安心。ラベンダー、ゼラニウム、ローズマリーなどをブレンドした香りが、穏やかに、心地よい眠りに誘います。

サラヤ アロマライフ　検索

いびき・無呼吸の治療にも使われています

大きないびきを伴う無呼吸症候群は、体内への酸素供給が滞り、寝ている脳を覚醒させ、眠りの質を下げます。セプンドリーマーズの「ナステント™」（7日分 ¥4,200）は、柔らかいチューブを自分で鼻に注入するだけで、気道に空気の通り道を確保。最初は医師にご相談のうえ、ご購入を。

ナステント　検索

自分の睡眠の質を可視化して管理できる

きちんと眠れているかをどうかを知るには、ジョウボーン「UP move」（¥6,480）がおススメ。身に付けて眠れば、毎日の睡眠時間、浅い眠りと深い眠りの比較、目覚めの瞬間などのデータが確認できます。消費カロリーなども記録できるから、運動した日としない日の睡眠状態を比較しては？ http://kanjitsu.com/jawbone

イラスト／ムラキワカバ　取材・文／大森律　デザイン／加藤さよ子

体の休息だけじゃない！

精神的なリセットで悲しみも和らぐ 睡眠のチカラ

睡眠は大切と思っていても、「明日寝ればいいか」と、つい夜更かししていませんか？　睡眠をないがしろにしているとツケがくる……。今回は、睡眠中の体と脳について教えてもらいます。

睡眠はなぜ必要

●体の休息
代謝力や免疫力を維持して、本来自分の持っている力を保つため。この休息をとらないと、太りやすくなったり、病気に罹りやすくなったり、傷や病気の治りが遅くなります。

●脳の休息
その日に起こったことの記憶の整理をします。情報をまとめて整理するだけでなく、怒りや悲しみを伴う記憶を薄れさせる効果もあります。

眠いのに眠れない不眠には精神的な原因と身体的な原因が

「人間は、1日の約1/3（7.5時間）寝なければならないようにできています。寝ている間には、身体的な休息と、脳の整理が行われます」と、教えてくれるのは、睡眠について研究を続けている平田裕美さん。

身体的な休息は、代謝して再生する力や免疫力などを維持するため。「風邪をひいた時、寝たら治った」経験のある人は多いはず。また、脳の整理は、前日に入ってきた情報を整理するだけでなく、怒りや悲しみを薄れさせたり、リセットさせることもできます。

「それらは生きていくうえでとても大切なことです。睡眠がきちんと取れないと、病気になりやすくなったり、成長が妨げられたり、肌荒れなど美容にも関わります。早朝頭痛や片頭痛などが不眠から起こることもあります。睡眠につまずき、アメリカの大学病院には、睡眠外来や睡眠センターを備えているところがとても多いです」

睡眠について問題を抱えている人を大きく分けると、①眠いのに眠れない、あるいは1日のリズム（サーカディアンリズム）が崩れている場合と、②ちゃんと寝ているのに、寝た気がせず、日中眠気に襲われる場合の2つがあります。

「眠いのに眠れないという原因には、精神的な問題と身体的な問題が考えられます。精神的というのは、何らかの不安を抱えて眠れなくなるケース。身体的な問題で眠れなくなる場合は、『むずむず脚症候群』などの病気が考えられます。この『むずむず脚症候群』は、横になると脚がむずむずして、じっとしていられなくなり、そのために不眠症になるという方も多いのです」

また、サーカディアンリズムが崩れるという原因の多くが、夜遅くまでスマホやパソコンなどの明るい画面を見つめ続けていたために、神経の興奮がなかなか収まらず眠れなくなるため。このような生活の乱れから会社に遅刻したり、行けなくなって解雇され、落ち込んで「うつ」になるといったケースも増えているそうです。

寝ている間も体と脳は自律神経のバランスを取っている

「ちゃんと寝ているのに、寝た気がしないという原因のひとつに、『睡眠時無呼吸症候群』があります。寝ているのに、実際には体と脳がきちんと休んでいないので、起床時に頭痛がしたり、不整脈が起こってしまう方もいます」

また、「夢遊病」や「レム行動障害」なども、自分では寝ているつもりでもきちんと体や脳が休息を取れないでいるので、日中の生活に障害が出ます。

通常は、眠りが浅い時間帯（レム期）は、脳が活発に動いて夢を見ますが、その夢を体が実践しないよう、体が休まるようになっているそうです。一方で、眠りが深い時間帯（ノンレム期）には、脳を休ませるために身体は副交感神経が優位になっています。レム期には体を休ませ、ノンレム期には脳を休ませる。このように交互に休息を取ることで、身体と脳がきちんと休まるわけです。

「脳と体が同時に休んでしまうと、何か危険を感じた時に反応できなくなってしまいます。そのように外敵から身を守る仕組みが人間には備わっているわけです。動物は、それがもっと顕著ですね」

このように、身体と脳は、寝ている間にもきちんと休息を取るためにバランスを取り合っています。ですから、レム期とノンレム期のどちらが不十分な場合、朝に

平田裕美さん
臨床検査技師。睡眠呼吸障害を中心とした睡眠医療の分野で臨床と研究に関わり、博士号を取得。その後、在宅医療・睡眠医療分野で使用する検査機器・治療機器の開発、販売促進を担う。

新聞記事

睡眠時の気道確保

鼻腔挿入デバイス発売

柔らかいシリコーン樹脂製で装用時の違和感が少ない

セブンドリーマーズラボラトリーズ（東京都、阪根信一社長）は、睡眠中の気道を確保する世界初の鼻腔挿入デバイス「ナステント　クラシック」を1日から本格販売すると発表した。いびきや睡眠時無呼吸症候群などによる気道の閉塞を防ぐもので、鼻腔に直接挿入することで睡眠時の気道を確保できる。装着しても目立たず、違和感も比較的少ない。希望小売価格は1箱4200円（税抜き、7本入り）。

同商品は、シリコーン樹脂製のチューブ状の医療機器。装用するとほとんどが鼻腔に入ってしまうため、外見からは装用していることがほとんどわからず目立たない。柔らかい素材を使用しているため、多くの使用者は数日間使用し続けると違和感を徐々に感じなくなるとしている。

睡眠時の気道の閉塞は、いびきや睡眠時無呼吸症候群の主因となる。近年の研究報告による

がることにより呼吸ができず酸欠状態が続くため、患者は十分な睡眠がとれないだけでなく、高血圧や脳梗塞、心筋梗塞などのリスクが高まると指摘されている。

これまで睡眠時無呼吸症候群の治療はCPAPといわれる呼吸補助装置を使用するのが一般的だった。しかし、CPAPは気道内圧を高め、気道を膨らます空気を作るコンプレッサーと、マスクを毎晩装着することが必要となり、治療を継続できる割合は半分程度ともされる。

同社は、炭素繊維複合材料の成形を行うスーパーレジン工業の関連会社。米国サンフランシスコにも拠点を置き、人々のライフスタイルを変えるイノベーションを追求する研究開発型企業を標榜している。

2014年7月11日『化学工業日報』

発行部数：13.5万部
日刊紙（朝刊のみ、土日祝日休刊）

無呼吸症候群対策に朗報

鼻から挿入して就寝時の気道を確保する（イメージ）

鼻から差し込んでいびきなどを防ぐ医療用具が初めて商品化された。薬事法上、医師の診断や処方がいるが、いびきや睡眠時無呼吸症候群（SAS）対策が手軽にできると あって注目を集めそうだ。

商品名は「ナステント・クラシック」。FRP成型なみを手がけるスーパーレジン工業の関連会社が発売した。スーパーレジン工業の親会社がカテーテル治療などに使う医療部材を手がけており、これらの素材や技術を応用した。原理は単純で、鼻から挿入された特殊なシリコンチューブが就寝時の気道を確保する。鼻からチューブを入れると聞くと何となく怖そうだが「コンタクトレンズと同じで、

お手軽医療用具が商品化

慣れれば違和感はほとんどない」（販売元）という。SASの治療にはマスクを装着し、機械で空気を気道に送り込んだり、マウスピースを着けたりする方法があるが、チューブはマウスピースとほぼ同等の改善効果が確かめられたという。気道に挿入後、チューブの断面積が広がる改良版も開発中だ。価格は7本入りで4536円。

SASは睡眠中の無呼吸状態が頻繁に起こったり、長引いたりする疾患の総称。昼間に急な眠気に襲われるほか、心筋梗塞や高血圧のリスクも高まる。国内潜在患者数は200万人超とされ、国土交通省も運送事業者向けの対策に取り組んでいる。

2014年8月8日『日刊自動車新聞』

発行部数：13万部
日刊紙

鼻腔挿入チューブ発売

使い捨て、SASを治療

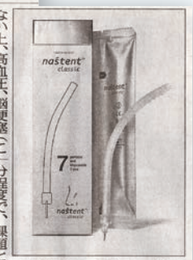
セブンドリーマーズ

セブンドリーマーズラボラトリーズ（阪根信一社長、東京都港区）は14日、睡眠時無呼吸症候群（SAS）などで気道が塞がるのを防ぐ、世界初の使い捨て鼻腔（びくう）挿入デバイス（チューブ）「ナステント　クラシック」を発売開始した。

睡眠時の気道の閉塞（へいそく）は、いびきやSASの主要因とされている。特にSASは、睡眠時の気道が塞がれて酸欠状態が続くため、十分な睡眠が取れない上、高血圧、脳梗塞（こうそく）、心筋梗塞といった病気の発症リスクも高まると指摘されている。

これまで、SASの治療は呼吸補助装置（CPAP）を使用するのが一般的だった。しかし、空気を作り出すコンプレッサーとマスクを毎晩装着するわずらわしさがネックとなり、治療を継続できる患者の割合は半分程度で、課題とされてきた。

新発売のナステントクラシックは、鼻腔に直接挿入するため、装着していてもほとんど目立たないぺ。また、「チューブは柔らかいシリコン樹脂でできているため、違和感も少ない」としている。1箱7本入りで、希望小売価格は4200円（税別）。（田中信也）



柔らかいシリコン樹脂でできているため違和感が少ない

2014年7月17日『物流ニッポン』

発行部数：16万部
月曜日と木曜日の週2回発刊

家庭で簡単にSAS対策

セブンドリーマーズが開発

相次ぐ高速バスの事故などで乗務員の睡眠障害や健康管理の対策が注目される中、鼻腔（びこう）内に挿入するだけで無呼吸症状やいびきがなくなる簡単な使い捨てデバイス「ナステント　クラシック」（写真）をセブンドリーマーズラボラトリーズ（港区）が開発、販売を開始した。

SASの治療は大がかりな呼吸補助装置を装着するCPAP療法が知られているが、「ナステント」は10ミリ強のチューブを睡眠時に片方の鼻に挿入して寝るだけ。違和感もなく外見では装着がほとんど分からない。使い捨てで簡便な医療機器はこれまで開発されていなかった。

素材はシリコン樹脂の柔らかいチューブ。鼻腔を通って喉まで装着することで、気道が確保され、重い無呼吸症状やいびきの原因の気道閉塞（へいそく）を防ぐ。装置は小さな止め具で鼻に止めるので飲み込む恐れはない。

長さや硬さによって計36種類があり、一人一人フィッティングし合うサイズを使用する。一般医療機器として睡眠専門のクリニックでの取り扱いが始まった。現在、港区の虎の門病院、仙台の岡部クリニック、大阪の入野医院が同機器による治療の相談を受けている。今後、取り扱い病院が増える予定。同社でもフィッティングを含めた直販を検討している。

装置は使い捨てで衛生的な滅菌処理の個別包装になっている。希望小売価格は7本入り1箱4200円（税抜き）。問い合わせは＝コールセンター☎0120−480740

2014年9月15日『東京交通新聞』

発行部数：1.5万部
週刊紙（毎週月曜日発行）

新聞記事

2015年1月16日『スポーツ報知』

発行部数：約140万部
日刊紙

世界初!! 使い捨て鼻腔挿入デバイス

睡眠時無呼吸症候群やいびき対策に

世界初の使い捨て鼻腔挿入デバイス「ナステント クラシック」＝写真＝が発売中。睡眠中の気道の閉塞を防ぎ、睡眠時無呼吸症候群やいびきの対策として効果が期待できる。

柔らかいシリコーン樹脂製なので、違和感も少なく手軽に使用できると好評だ。

2015年3月31日『北海道新聞』

発行部数：106万部
日刊紙

いびきや無呼吸の悩みに、新しい提案！ナステント™

ナステント™クラシックは、鼻から挿入するチューブ状の医療機器です。

チューブの先端は軟口蓋（のどちんこ付近）にまで到達し、挿入されたチューブがいびきの原因となる気道の閉塞、寝苦しさや睡眠中の頻繁な覚醒を防ぎます。

ナステント™は、人肌に近い柔らかさで設計されているので、小さい負担で症状が緩和でき、どなたでも簡単にご使用いただけます。

※ナステント™は医療機器ですので、まずは医師にご相談ください。

■お問い合わせ：0120-480740
（受付時間：9時～21時）
製造元：セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ株式会社
商品名：ナステント™ クラシック
医療機器届出番号：
13B2X10245000001

ナステント　検索

2015年4月30日『福島民報』

発行部数：25万部
日刊紙

いびきや無呼吸の悩みに新提案!

ナステント(TM)クラシックは、ご自身で鼻から挿入するチューブ状の医療機器です。ナステント(TM)クラシックを軟口蓋（のどちんこ付近）にまで挿入することで、いびきの原因となる気道の閉塞、寝苦しさによる睡眠中の頻繁な覚醒を防ぐことができます。多くの医療現場で実績ある「チューブを挿入して気道を確保する」という手法を、気軽に使用できるようにしたのが、ナステント(TM)クラシックです。ナステントのパックはひとつひとつが滅菌済みで、常に清潔な状態が保たれており、鼻の中を傷つけないように人肌に近い柔らかさです。そのため、挿入時の痛みはなく、どなたでも簡単にご利用いただける設計となっています。また1箱47～48グラムと手軽に携帯ができ旅行や出張などに気軽に持っていくことができる画期的な新しいデバイスです。いびきでお困りの方、ぜひお試しください。

※ナステントは医療機器ですので、まずは医師にご相談ください。医療機器届出番号:13B2X10245000001

セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ株式会社
東京都港区三田1-4-28
TEL 0120-480740　受付時間:9時～21時
HPURL:https://nastent.sevendreamers.com/

ナステントクラシック　検索

2015年6月10日『化学工業日報』

発行部数：13万部
日刊紙

セブンドリーマーズラボラトリーズ

鼻腔挿入デバイス投入

全国展開、テレビCMも

相次ぎ新規事業立ち上げ

阪根社長

ベンチャー企業のセブンドリーマーズラボラトリーズ（東京都港区、阪根信一社長）は、新規事業を矢継ぎ早に立ち上げる。昨年3月に炭素繊維複合材料（CFRP）製のゴルフシャフト事業を開始したのに続き、7月には鼻腔挿入デバイスを市場投入。今秋にはロボティクス分野におけるBtoCの新商品を発表する。先行するゴルフシャフトと鼻腔挿入デバイスは、いずれも好調なスタートを切っている。さらなる事業拡大の資源を得るため、KISCOなどから15億2000万円の資金調達を実施した。将来的には株式上場も視野に入れており、2019年度には売上高100億円突破を目指す。

同社は、化学メーカーであるI.S.Tの元社長であり、その子会社でCFRP成形メーカーのスーパーレジン工業のオーナーである阪根信一氏が立ち上げたファブレスメーカー。“新しい価値観を創出し、革新的な技術力でイノベーションを起こす企業”と位置づけており、シャフトはスーパーレジン工業のオートクレーブ成形による宇宙品質かつ完全オーダーメードという従来ない提案により、男女ともトップアスリートにも採用されており、月100万円を上回る売り上げに達している。直営店も都内に続き4月には大阪にも構え、今後中国・上海にも設置を検討する。今期中に500人のリピーターを獲得して3億円超の売り上げにつなげる。さらに年内に欧州でも発売を開始予定で、米国でも展開する考え。

簡便で使い捨て可能な鼻腔挿入デバイスも急速に売り上げを伸ばしていく。100件を超える病院・クリニックと直接契約を結んだほか、全国の医療機器卸とも契約して全国展開している。今年2月には福岡県でテレビコマーシャルを行い、大きな反響を得たことから、今回調達した資金をもとに首都圏でもコマーシャルを放映予定。今期第3の事業としてロボティクス分野にも進出する。10月の展示会で披露する計画で、17年からの事業化を目指す。さらに、将来的にはスーパーレジン工業が持つCFRP製品の最適設計技術および量産ノウハウを生かして電気自動車メーカーとして名乗りを上げる考え。

こうした事業の拡大計画に向けて今回、東京大学エッジキャピタル、KISCO、全日空商事、四条、新生銀行などを引き受け手とした第三者割当増資を実施。各事業の販売および開発を強化するとともに、さらなる商品開発を行い、人々の生活を大きく変えるイノベーションを起こしていくとしている。（関口裕介）

技術力駆使しイノベーション

2015年6月11日『日経産業新聞』

発行部数：13万部
月～金曜日発行

いびき治療チューブ硬く

セブン・ドリーマーズ 鼻に挿入容易

セブン・ドリーマーズラボラトリーズは11年に米国で創業し、昨年日本に法人を移した技術開発型のベンチャー。小惑星探査機「はやぶさ」で使用されたカーボンを用いたゴルフシャフトや、ナステントなどを開発・販売している。

セブン・ドリーマーズラボラトリーズ（東京都港区、阪根信一社長）は12日、いびきや睡眠時無呼吸を治療する機器「ナステントクラシック」の新製品「ハードタイプ」の販売を開始する。ナステントはシリコン製の使い捨てチューブで、睡眠時に鼻の穴に差し込んで利用する世界で初めての製品。従来品と比較して、うエ夫されているという。自分で片方の鼻の穴に差し込むことで、気道を確保する。医療機器として認可を受けて2014年7月に発売し、現在全国150の医療機関で取り扱われている。欧州でも年内に販売を開始する予定。

いびきや無呼吸は、肥満などが原因で気道が閉塞することで起こる。日本でも少なくとも300万人以上、多ければ1000万人以上の患者がいるほか、米国でも臨床試験（治験）を実施中だ。

今回発売するハードタイプはチューブを硬くしたことで鼻の穴へ挿入しやすくしたほか、チューブが鼻の中でつぶれてしまって効果のない、重度のいびきや無呼吸症候群でも効果が期待できる。1箱7本入りで、価格は4200円（税抜き）と既存のナステントと同じ。ソフトタイプのナステントは併売する。

・ラボラトリーズは11年に米国で創業し、昨年日本に法人を移した技術開発型のベンチャー。小惑星探査機「はやぶさ」で使用されたカーボンを用いたゴルフシャフトや、ナステントなどを開発・販売している。

WEB 掲載

2015年3月4日『日経デジタルヘルス』

日経デジタルヘルス
医療・健康・介護の技術革新で新産業を

“宇宙技術”で無呼吸症候群イノベーションを

阪根 信一氏　seven dreamers laboratories 代表取締役社長

「ナステント クラシック」――。睡眠の質に悪影響を与える要因となるいびきや無呼吸を防ぐため、睡眠中の気道を確保する使い捨ての鼻腔挿入デバイスである。

医療機器でありながら、電源などは必要なく、いつでもどこでも気軽に使用できる。装着していることが周囲から目立たないのも特長だ。

2014年7月に発売された同デバイスを開発したのは、seven dreamers laboratories（以下、セブンドリーマーズラボラトリーズ）。航空宇宙分野の技術開発を源流とする企業でありながら、医療機器である同デバイスに加え、スポーツ用品である「ゴルフシャフト」を製品ラインアップにそろえる。

同社がいかにナステント クラシックの開発に行き着いたのか、今後の展開はいかなるものなのか――。同社 代表取締役社長の阪根信一氏、そしてヘルスケア・ディビジョン・マネージャーの山田弘志氏、ヘルスケア・エンジニアの平田裕美氏に聞いた。

鼻腔挿入デバイス「ナステント クラシック」
（写真：加藤　康、以下同）

――セブンドリーマーズラボラトリーズの技術の源泉は、航空宇宙分野の技術開発にあるのに対して、ナステント クラシックのような医療機器、そしてゴルフシャフトなど全く異なる分野の事業を展開しているのはなぜですか。

阪根氏

もともと我が社のベースは「宇宙」にあります。特に樹脂や炭素繊維などの高性能な材料設計技術で宇宙開発に貢献してきた歴史があります。一方で、この技術と強い製品開発力を今後、人々の生活の中にもっと生かしていくためにイノベーションを起こしたいという思いがありました。

イノベーションを起こすためには、分野を問わずにテーマを選定していくというのが我々の考え方です。よく「ニーズか、シーズか」という議論がありますが、私はニーズからしかあり得ないと考えています。人々の生活の中で「こんなものがあればいいのに」と思うニーズをまず見つけて、そこでマーケティングリサーチをして、もしそれが実現できたら、大きな売上になるということが見えた時点で、初めて開発をスタートさせます。

一見無関係のバラバラな分野の事業を手掛けているのは、そのためです。ご指摘のように、オーダーメイドのゴルフシャフト事業も立ち上げています。一方で、何とか睡眠時無呼吸症候群（以下、無呼吸症候群）の分野でイノベーションを起こしたいと開発したのがナステント クラシックというわけです。

――無呼吸症候群の分野でイノベーションを起こしたいと考えたキッカケは何でしょうか。

阪根氏

実は、私自身が重症の無呼吸症候群患者なのです。

現在、標準的な解決策としては睡眠時にCPAP（Continuous Positive Airway Pressure、エアチューブと鼻マスクが一体となった医療機器）を装着する方法があります。私も愛用していましたが、患者視点で考えると、どうしてもCPAPでは解決できない問題が存在しました。

まずはユーザビリティーです。そもそもこんな機器を付けたら「不快で眠れない」という方もいますし、付けたとしても朝になったら取ってしまっていることもあります。さらに、私自身もそうでしたが、出張の度に持ち運んでいられないという点も問題です。もっともCPAPには、わざわざ病院へ行って検査入院をして、重症以上の人だけが処方されるという“面倒くささ”があります。

seven dreamers laboratories 代表取締役社長の阪根信一氏

一方で、無呼吸症候群は今や単に“睡眠中に息が止まるだけの病気”ではなくて、糖尿病や脳梗塞、心臓疾患など、がんを除く成人病のほとんどの起源と言われるようにもなってきました。つまり国民医療費のことを考えても、根本的に解決する必要があるわけです。

ですから私自身の経験も含め、これらの問題を解決することで、とても大きなマーケットにつながると考えたのが開発のスタートになります。

――ナステント クラシックは2014年7月に発売され、約半年経ちました。市場の反響はどうですか。

阪根氏

大きく分けると2つの視点があります。1つは、医師がこの商品をどう考えるかということ。もう1つは医師を通じて患者がどう感じるかということです。

まず、医師の反応に関しては、我々の想定以上の結果が出ています。現状、ナステント クラシックは取り扱い病院で処方後に購入してもらう形を採用しているのですが、発売当初は取り扱いがわずか3病院でした。しかし、その後に慶應義塾大学病院が取り扱いを決めた頃をきっかけに、順天堂大学医学部附属順天堂医院など業界内で権威のある病院が取り扱いを開始してくれました。

すると全国から「ぜひ、うちの病院でも取り扱ってみたい」といった声が届くようになったのです。今では医療機器ディーラーにもカバーしてもらい、全国のクリニックや病院から概ね好評を得ています。

そして患者の反応に関しては、続々とナステント クラシックを試してもらっており、非常に多くの方からの良い反応が聞こえてきます。特に、CPAPを付けなくてはいけないものの理由があって付けられないような方々から「CPAPでは叶えられなかった問題解決ができた」といった声が届いています。

――平田さんは医学博士とのことですが、その視点から見ても画期的な商品と感じますか。

平田氏

はい。特に睡眠というのは、1996年に日本で保険診療になって、1998年に初めてCPAPが保険で使えるようになりました。その後2004年にマウスピースを診療で使えるようになり、そこから10年、何も進化がなかったんです。

日本のライフスタイルがどんどん変わっていく中で睡眠方法もどんどん変わってきたのに、睡眠治療に関しては全く変化がなかった。そこにこの画期的なナステントが誕生したことで、医師の先生方はかなり驚かれて興味を持ったのだと思います。

睡眠の分野はアメリカやオーストラリアが進んでいて、CPAPや検査機器のほとんどを海外から持ってきています。「日本は10年遅れている」と言われていた中で、日本の会社が画期的な製品を作ったというのは、医師の間でもかなりのインパクトがあったと思います。

http://techon.nikkeibp.co.jp/article/INTERVIEW/20150303/407061/?ST=ndh

WEB 掲載

ヘルスケア・エンジニアの平田裕美氏

ヘルスケア・ディビジョン・マネージャーの山田弘志氏

―― ナステントの開発の過程で苦労した点は何かありますか。

阪根氏

先ほどお話したように、この分野が大きなマーケットにつながると考えたことをキッカケに、まずは技術開発担当の山田とともに何かいいアイデアないかとディスカッションを重ねました。その中でほぼ同時に思いついたのが、ナステントの原型です。早速、大学病院の医師に相談しに行ったところ「それは面白い」というコメントをもらい、2007年に開発をスタートしました。

山田氏

開発は、「何をしていくべきなのか？」を探すところから始めました。当時は医師と強いコネクションがあるわけでもなく、医療機器の最終製品としてどういう開発工程を踏むべきかも全く分からない状況でしたから。いろんなところに行き、聞いて、手繰り寄せながらやってきたというのが、開発初期に一番苦労した点です。

阪根氏

最初は材料に金属を用い、挿入後に鼻腔内で展開する（広がる）構造を試してみました。それを山田がさっそく試してみたところ、血まみれになってしまったんです。「社長、これ無理です」と。今では笑い話ですが、そんなところからスタートしました。

CPAP 装着のイメージ（写真：BVDC Dollar Photo Club）

次に柔らかいシリコーンチューブを使おうということになり、最初の試作品が仕上がりました。初期はチューブの先端が鼻腔内で開くような仕組みにしたのですが、さまざまなアクシデントを繰り返しました。例えば、ストッパーの部分を後回しにしていたため、医療用テープで鼻の下に仮固定して眠ったら、起床時に喉の奥までチューブが落ちてしまい、慌てて指を突っ込んで吐き出したりとか…。

実は、この初期開発モデルは、ナステント クラシックの次に発売する「ナステント EX」というものなんです。チューブを鼻腔内に挿入すると唾液によって 30 秒でジェルが溶けて中で展開するモデルです。

ナステント クラシックは、鼻腔内で展開しないただのチューブ形状なのですが、私のように AHI（無呼吸低呼吸指数）が 37 ～ 40 で「重症の軽い方」のレベルまでの患者ならば、これでもギリギリ効果があると思います。具体的には、ナステント クラシックの対象患者は「いびき患者」「軽症患者」「中等症患者」となります。

一方で「重症の中等」以上の患者には、鼻腔内部で展開するナステント EX でないと、完全な効果はないといえるでしょう。あわせて両方の鼻の穴に挿入するタイプの「ナステント ツインズ」についても 2016 年 4 月を目標に発売する考えです。

―― 薬事法対応など医療機器独特の障壁への苦労はありましたか。

阪根氏

実は 10 年以上に渡り PTCA バルーンカテーテルの分野で某医療機器メーカー向けに非常に高精度な素材を納めていました。ですからある程度は医療機器マーケットに親和性がありました。ただし、自社ブランドで自ら許認可を取得して販売まで手がけるのは初めてのことでしたから、確かにハードルではありました。

最初はコンサルタントに相談しました。試しに、日本の薬事法だけではなく、欧州の CE マーキング、アメリカの FDA（米国食品医薬品局）、中国の CFDA（国家食品薬品監督管理局）と、全世界のカバーをコンサルタントに丸投げしたらどうなるかと見積もりを依頼したら、ざっと 2 億円の投資が必要と…。

当然そんなには払えないということで、「社内でやろう」と転換したんです。ご意見番として最低限のコンサルタント契約は結びましたが、素人である我が社の技術者集団が、厚生労働省や FDA などと直接やり取りをしていきました。実際にやってみての感想は「全然できるじゃないか」というものでした。

2013 年 4 月に CE マーキング、2014 年 2 月に日本の薬事法の許認可を取得し、2015 年 8 月には FDA の認可が取れる見込みです。あとは中国で認可が取れれば、ほぼ世界をカバーできます。

―― 今後のマーケティング戦略についてはどのように考えていますか。

阪根氏

ナステント クラシックはクラス I の一般医療機器認可を取っている機器なので、本来なら薬局でも買えます。しかし、こうした機器をいきなり薬局に置いても、まずは医師のお墨付きがないとなかなか購入しようと思わないと見ています。ですから最初の 1 年半は、あえて医師から勧めてもらう形を取っています。

加えて、挿入する鼻の穴が右か左かを判断し、鼻腔の長さも人によって違うため、長さを測定する「フィッティング」という行為が伴います。現在「セルフフィッティングキット」を開発中ですが、まずは医師か看護師にフィッティングしてもらおうと考えています。この 2 つの理由から、2016 年 3 月までは病院を通すことにしています。

一方で、先ほどお話したナステント EX とナステント ツインズは現在、クラス II の認可、そして保険適用の対象品にしようと動いています。ナステント EX とナステント ツインズは医師に処方してもらい、保険を適用した価格で入手できるようにしたいと画策しています。

そしてナステント クラシックはセルフフィッティングキットとともに販売し、どの薬局でも買えるようにしていきます。現在の価格は 1 本当たり 600 円（7 本入りのパッケージ販売）ですが、大幅にプライスダウンして一気に普及させていく戦略を考えています。

―― 薬局での展開以外に、さらなる販路の拡大は検討していますか。

阪根氏

はい。例えば、眠りに直結しているホテルや旅館での販売やコラボレーションも考えられるでしょう。

さらに、ある航空会社からも興味を示してもらっています。航空業界では今、ファーストクラスに高級マットレスを導入するなど、眠りに注目しています。ナステントを機内でのいびき対策で利用したいという考えのようです。

その他には、スポーツ選手との協力体制も敷きたいと考えています。年中遠征し、体が大きい方が多いので、無呼吸症候群やいびきで悩んでいる方は結構多いんです。しかも眠りの質がそのままスポーツのパフォーマンスに影響します。本人の収入に直結する問題です。

実際、スポーツ選手でナステントに興味を示す方は非常に多いです。逆に、スポーツ選手はメディア露出も大きいですから、ナステントの認知を広げていく上でも効果的だと見ています。

―― その他に患者へのナステントの認知を高めていく仕掛けは考えていますか。

阪根氏

主婦をターゲットにした PR 活動を考えています。無呼吸症候群を患っている人は男性が多いのですが、その症状に伴ういびきを横で聞いている、つまり迷惑を被っている主婦層が、実は重要なターゲットとなります。試験的に主婦向けの PR を実施していく予定です。

―― 今後、他の医療機器メーカーなど競合が追随してくる可能性もあります。

阪根氏

これが売れると分かった瞬間に、莫大な資金を持つ大手企業が攻めてくると思います。ですから我々はまず、特許をしっかりと固めました。そしてブランディングが大切だと感じています。我々が最初に開発したイノベーターであることを、世に知らしめなくてはいけません。

http://techon.nikkeibp.co.jp/article/INTERVIEW/20150303/407061/?ST=ndh

WEB 掲載

2015年1月29日『MY LOHAS』

ロゴ

MY LOHAS Love your life.

トップ › ロハスな暮らし › あなたも睡眠時無呼吸症候群？「いびき」だけじゃない意外な症状

ロハスな暮らし

あなたも睡眠時無呼吸症候群？「いびき」だけじゃない意外な症状

いいね！ 11 ツイート 20 +1 0 2015.01.29 23:15

集中できない、いつも疲労感や倦怠感がある……。そんな不調は良質な睡眠がとれていないせいかもしれません。

気をつけたい睡眠時無呼吸症候群

ちかごろ増えている「睡眠時無呼吸症候群（Sleep Apnea Syndrome; SAS）」は、睡眠時に呼吸停止または低呼吸になる病気。咽喉（そしゃく）回数がへり、下あごの骨が退化した現代人がおちいるようになった、人間の宿命病のひとつであるともいわれています。

睡眠時無呼吸症候群は、寝ているあいだに気道がふさがることによって呼吸が難しくなります。すると、十分な睡眠をとれないだけでなく、酸欠状態になって、高血圧、脳梗塞、心筋梗塞といった病気のリスクがたかまるといいます。30～60代の男性に罹患率が高いことで知られていますが、**女性ホルモンの関係で更年期以降には女性の罹患率もアップするのだそう。**年齢とともに、**特徴的な症状である「いびき」の頻度も高くなる**のだとか。

そう言われれば、昔にくらべていびきを指摘されることが増えたような……？ 女性も見過ごすことのできない睡眠時無呼吸症候群の症状と、なりやすいタイプをチェックしてみましょう。

気軽に使える気道確保アイテム

これまでおおきな呼吸補助装置が必要だった睡眠時無呼吸の治療ですが、だれでもつかえる使い捨てタイプの気道確保アイテムが登場しました。「ナステント クラシック」は**鼻腔に直接挿入して使うシリコン製の柔らかいチューブ状デバイス。**

外からは挿入しているのが分かりにくいため、装着中の寝顔も気になりません。手軽にもち歩けて、旅行や外泊など使う場所を選ばないところも女性にとってはうれしいアイテム。使い捨てなので**いびき、つらい花粉症、疲労が気になるときだけ試してみるのもよさそう**です。

ナステント クラシック 4,200円（税抜・7本入り）

質のよい眠りで、日中がんばってくれている脳とカラダを十分に休息させ、毎日を快適に過ごしたいものです。

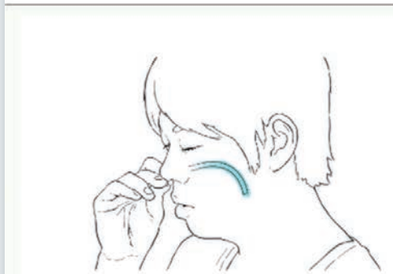
http://www.mylohas.net/2015/01/043801nastent.html

2015年3月10日『ネムジム』

ロゴ

GOODS 2015年03月10日（火）

就寝前に鼻からチューブを挿入!?　いびき防止の画期的なデバイスが登場



睡眠中にいびきが気になる人、また、いびきをかいていると指摘を受けたことがある人は多いのではないでしょうか。いびきをなんとか解消したい！という方のために、いびき防止の最新デバイスをご紹介いたします。

いびきの原因はさまざま

いびきは、寝ている間に気道が狭くなり、空気が通りづらくなって、のどの付近の粘膜が振動して音が出る現象です。原因はさまざま。疲れや過度な飲酒などで一時的に筋肉が緩んでいびきが出る場合も危険ですが、最も注意しなければならないのは、慢性的にいびきをかくケースです。

いびきにより睡眠の質が低下

肥満により顎や首についた脂肪が気道を狭くしている場合や、顎が小さいなど骨格に原因がある人もいます。また、口呼吸は鼻呼吸に比べて気道が狭くなりやすいため、口呼吸が習慣になっている人は、いびきをかきやすくなることもわかっています。

いびきをかくということは、スムーズに呼吸ができず睡眠の質が低下しているということです。また、放置していると睡眠時無呼吸症候群などの重大な疾患にもつながりかねません。

簡易な処置で鼻からの気道を確保

昨年7月に発売された「ナステント クラシック」は、セブン・ドリーマーズが睡眠専門医とともに開発した新しいタイプの医療器具。柔らかいチューブ状の器具を鼻孔から軟口蓋（のどちんこ付近）まで直接挿入し、気道を確保していびきの防止や気道狭窄による寝苦しさを軽減するというものです。

鼻孔からのチューブ状の医療器具を挿入して気道を確保する手法は救命救急などの医療現場で実践されており、ここからヒントを得て開発されました。

体にやさしい使い心地を追求

使い方は簡易ですが、鼻腔へのチューブ挿入は、とてもデリケートな処置。そのため体へのやさしさに最大限に配慮してあります。チューブの素材は人肌に近い硬度5～20のシリコーンゴムが主成分。潤滑剤として80%が水でできている、ハイドロジェルも塗布してあります。

鼻柱に引っ掛けるノーズクリッパーの先にもシリコーンゴムを使用。留めやすくしっかりと固定できるようになっています。また、一つひとつ滅菌をほどこした個包装で、使い捨てタイプのため、常に清潔なものを使用できます。

使用の際は、医師に相談を

ナステントは、長さと硬さにバリエーションがあるため、医師と相談し自分に合ったものを選択できます。睡眠時無呼吸症候群の患者に対する有効性のテストでは、とくに軽度から中等度の患者において睡眠時無呼吸、睡眠時低呼吸の両方が改善する効果が認められています。

慢性的ないびきや、睡眠時無呼吸症候群の症状に悩む人は、治療の選択肢の一つとして、ナステントの処方を医師に相談してみるのもよいでしょう。

http://nemgym.com/201503105584/

WEB 掲載

2015年4月16日『東洋経済 on line』

東洋経済 TOYOKEIZAI ONLINE

経済損失3.5兆円！「睡眠時無呼吸症」の裏側

首周りの脂肪があなたを危険に追い込む

安積 明子 ：ジャーナリスト　2015年04月16日

首周りに付いた脂肪が睡眠時無呼吸症をもたらすことが多い（写真：elfin/PIXTA）

男性の4%、あるいは200万人から300万人もの患者がいると言われる睡眠時無呼吸症候群（Sleep Apnea Syndrome、略称SAS）。睡眠時に10秒以上の無呼吸が1時間あたり5回以上、あるいは7時間の睡眠中に30回以上の頻度で起こる場合を指す。

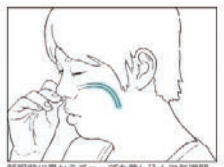
SASは2003年2月に起こった山陽新幹線の列車緊急停止事故で一躍有名になった。前日に十分に睡眠をとったにもかかわらず、運転士が8分間居眠りをしたまま運転し、列車を時速270キロメートルで約30キロメートル走行させたのだ。

検査の結果、運転士は睡眠時に1時間あたり40回以上呼吸が止まり、血中酸素濃度が75%まで低下する重度の閉塞性SASと判明。驚いたJR西日本は、同社の全運転手370人に緊急診断を実施し、国土交通省も全国の鉄道各社に対策を求める方針を決定した。

原因の過半が首のまわりに付いた脂肪

SASの原因の過半数は肥満だ。首のまわりについた脂肪が、睡眠時に気道をふさいでしまうからだ。また、肥満でなくとも東洋人特有のあごの小ささや、現代の食生活による小顎症、および扁桃腺肥大なども、舌を落ちこませて気道を塞いでしまうためSASの原因になりうる。こうした閉塞型SAS以外に、脳の呼吸中枢機能が低下して呼吸筋の運動が停止する中枢型SAS、そして両者の混合型SASがあるが、日本では例が少ないといわれている。

経済損失3.5兆円！「睡眠時無呼吸症」の裏側
首周りの脂肪があなたを危険に追い込む
安積 明子 ：ジャーナリスト　2015年04月16日



睡眠前に鼻からチューブを差し込んで気道閉塞を緩和するナステントのイメージ

そもそもマウスピースもCPAPも、SASに対する対症療法にすぎず、長期にわたるアドヒアランス（＝患者自身が病気を受容したうえで治療方針の決定について積極的に参加し、その決定に沿って治療を受ける態度のこと）が必要だ。しかしCPAPの治療を継続できる割合は、半分程度というデータもある。

そうした不具合を解消しようと最近発売されたのが、睡眠前に鼻からチューブを差し込んで気道を確保するナステントだ。使い捨てのために衛生面で問題がなく、持ち運びも便利だ。費用はCPAPの際の通院コストとほぼ同額だが、保険が適用されればさらに安くなる。

本人に自覚がなくても交通事故には厳しい目

SASが注目されるにつれ、交通事故には厳しい目が向けられている。2003年に居眠り運転した山陽新幹線の運転士の場合、「実害は発生していない」「本人に自覚がなかった」として2004年に起訴猶予になった。また2002年に和歌山県で起こった正面衝突事故については、3人が重軽傷を負ったが、運転手が昏睡中だったとして大阪地裁は2005年に無罪判決を下している。

2008年に愛知県で重度のSAS患者が運転する大型トレーラーが交差点に突っ込んで通行人を死亡させた事例でも、1審の名古屋地裁が「SASの影響で眠りに落ちた可能性を否定できず、犯罪とは証明できない」として無罪判決を下している。

しかし同事件は最高裁まで争われ、懲役5年の実刑判決が確定した。また、2012年に関越自動車道で7名を死亡させ、38名負傷の事故を起こしたツアーバスの運転手については、前橋地裁は2014年に自動車運転過失致死罪で懲役9年6か月、罰金200万円という極めて重い判決を下している。

SASに決め手となる治療法がないかぎり、我々はこの病気と付き合わなくてはいけない。そのためには患者への負担ができるだけ軽く、社会の安全が最大に保証されることが求められている。

http://toyokeizai.net/articles/-/66408

テレビ

2015年5月3日『駆け込みドクター！　運命を変える健康診断』

2015年5月17日『賢者の選択 Leaders』

2015年6月12日『バイキング』

毎日の睡眠を快適に